

愛の便り

校訓：志が人生を創る

進級・入学 おめでとう

まだかまだかと開花を待ちわびていた桜も一気に咲き誇ったと思いきや、連日の雨や強風であつという間に葉桜になってしまいました。その代わりに新入生を迎えたのは、在校生が大事に育てた自慢のデージーやサイネリアでした。

昨日待ちわびた67名の元気な新入生を迎え、127名の在校生と合わせて194名で今年度の愛野中学校が船出をしました。4月1日が月曜日とあって、職員総勢24名が新年度初日から気持ちを引き締めて、万全の準備を整えて迎え入れたところです。

進級した子どもたちはそれ以上の働きぶりでした。入学式前日の会場設営や校内の美化作業をはじめ、あらゆる場所・場面で本当に献身的な姿を見せてくれました。また、初日から自学ノートを提出したり、私がやりますと自ら名乗り出たり、そのやる気を形で示している生徒がたくさんいるようで、頼もしい限りです。新年度のスタートにあたって、まさしく「始動の勇氣」をもって全力で当たっている証拠ではないかと感じたところです。

初日からパワー全開でエネルギーに動く生徒たち。見違えるほどの変身をとげ、初日からハイペースで頑張る生徒。いつの間にかフェードアウトしないように、体調面もしっかり管理しながら頑張してほしいと思います。願わくば、これから先も長く続くようにこの勢いを大事にほしいところです。

新年度第1週の総評として、昨年度のスタートに勝るとも劣らない活気を感じています。子どもたちの取ってはわずか3年間ですが大切な1年です。これらを踏まえつつ、その気持ちに応えるべく全力で指導・支援していきたいと思えます。気持ち新たにスタートが切れたことを確信するとともに、本年度も保護者の皆さまのご支援とご協力をよろしくお願ひします。(※転入職員につきましては、転出と同様、割愛させていただきます。各学年の便りをご参照ください。)



【始業式で話したこと】

○「失敗を覚悟で挑み続けること」

(「3C」のChallengeを強調しました。)

失敗しないことに越したことはない。しかし、多くの場合、

雲仙市立愛野中学校 学校便り

令和6年 4月11日

第82号(今年度第1号)

文責(校長; 末永栄喜)



失敗はつきものである。たかが一回のチャレンジで成功することは稀である。しかし、失敗するかもと尻込みしては前に進まない。失敗を恐れれば、必ず失敗する。失敗してもすぐ諦めない、そこで止めない。繰り返しチャレンジすることが何より大切である。

許されない失敗もある。人を傷つけたり人に迷惑をかけた、人が不快に感じるようなことは許されないのである。

(もう一つ。3年生にとっては、受験の失敗も取り返しがつきません。第1志望校へ向けてしっかり努力してください。)

【入学式で話したこと】

○「新しい自分の発見」という旅の始まりである。

胸に抱いた新たな決意を大事に温め続けてほしい。その一つ一つを必ず実現しよう、達成しようとして一日一日を過ごしてほしい。

○人に頼らず心がけてほしいこと(努力の方向性)

- 一、「自ら考えて積極的に学ぶ生徒」**チャンス!**
- 二、「失敗を恐れず果敢に挑む生徒」**チャレンジ!**
- 三、「誰とも助け合う心優しい生徒」**チェンジ!**

合言葉

中学校のあらゆる機会や場面は、次の時代を担うために準備されたもの。確実に掴んで自分のものにしてほしい。

勇氣をもって本気で挑戦すれば、同じ失敗でも価値あるものになる。それは、次なるチャレンジへ向けて弾みや勢いをつけ、新たなエネルギーを生み出す。

「人に対する思いやり」は、人として生きていくために最も大事な土台である。誰に対しても優しさや思いやりの心で接しながら自分を磨き、今までの自分よりさらに成長した人へと変わってほしい。

○保護者・地域の皆様にとっては「協力の方向性」です。

学校は、保護者や地域の方々のお支えがあってこそ、その学校独自の輝きを放つことができます。子どもたちの健やかな成長のために、どうぞ保護者の皆様のご理解とご協力、地域の方々のお力添えを賜りますようお願いいたします。

言うまでもなく、目指すべき生徒像は私たち教職員にとっては「指導の方向性」を示すものです。

教育の目的は「次代を担う人づくり」

です。全教職員が使命感に徹しつつ、常に子どもたちを真ん中に据えて、愛情と情熱を傾けながら日々の教育活動に当たっていく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



校長室の窓から

このコーナーは昨年度に引き続き、私なりに見て感じたこと、言いたいことや伝えたいことを徒然なるままに記載していきます。「校長の呟き」と解釈していただき、軽く読み流してもらえればと思います。初回はやはり、

【学校の組織力】

=「生徒・教職員個々の意欲」×「チーム7(和・輪)7」

決して口先だけでなく、そして絵に描いた餅にならないよう、その具現化に努めていきたいと思ひます。